

速習テキスト 消費生活アドバイザー 一次試験要点まとめ

2014



目次

衣生活	6
繊維の生産と廃棄.....	6
衣服の消費性能.....	6
繊維の種類.....	7
糸の種類.....	9
布の種類.....	9
カタカナ用語.....	10
染色.....	10
加工.....	10
既製の表示.....	11
家庭洗濯.....	12
商業洗濯.....	13
仕上げと保管.....	14
食生活	14
栄養素.....	14
食品の成分.....	16
食品の加工・作用・保存.....	18
食事摂取基準.....	19
国民健康・栄養調査.....	20
食品添加物.....	20
食中毒.....	22
食品と放射性物質.....	23
食品の表示.....	23
食料自給率.....	26
住生活	27
建築基準法など.....	27
住宅政策の歴史.....	28
住宅工法の分類.....	29
建築材料.....	30
室内環境.....	31
住宅設備.....	33
建築基準法による規定（住宅の場合）.....	34
住宅用語.....	34
社会保障・社会福祉	35
わが国の社会保障制度.....	35
公的年金制度.....	36
雇用保険制度・労災保険制度.....	38
介護保険制度.....	38
障害者福祉.....	39
生活保護制度.....	39
児童手当.....	40
医療	40

医療機関の分類	40
医療保険制度	41
国民医療費	42
医薬品の分類	42
余暇	43
余暇生活に関する白書・調査	43
余暇生活に関する用語	44
商品サービス	44
商品・サービスの特徴	44
主要商品の品質及び安全性	45
商品の修理・補修	46
主要サービスの品質及び安全性	46
広告と表示	48
広告の分類	48
問題広告	48
表示の適正化	49
消費者マーク	49
情報	50
暮らしの中の情報化	50
情報化関連用語	50
消費者問題	53
消費者問題発生の背景	53
国内消費者問題・消費者運動の歴史	53
海外消費者問題・消費者運動の歴史	54
消費者問題に取り組む国際機関	55
消費者の権利と責任	56
消費者教育	58
商品テスト	59
最近の消費者問題	60
行政知識	61
消費者行政の歴史	61
消費者庁	62
国民生活センターと消費生活センター	63
行政機関・第三者機関	64
法律知識	65
民法①原則	65
民法②保証契約	65
民法③契約解消の種類	66
未成年者契約	68
成年後見制度	68
消費者契約法	69

特定商取引法	70
割賦販売法	74
製造物責任（PL）法	76
貸金業法	77
独占禁止法（私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律）	78
景品表示法（不当景品類及び不当表示防止法）	78
不正競争防止法	79
公益通報者保護法	80
個人情報保護法	80
金融商品取引法	80
金融商品販売法	81
紛争解決	81
多重債務の解決方法	82
主な消費者法整備の歴史	83
経済一般	88
戦後の経済発展	88
産業革命	90
景気変動	90
国民所得	91
物価	92
価格メカニズム	93
需要の法則	94
供給の法則	96
労働の需要と供給	96
財政	97
金融	98
産業構造と貿易	99
統計	100
統計調査の方法	100
データの集計と分析	102
経済統計の理論	102
経済統計の種類	103
各種の経済統計	104
景気動向を捉える統計	105
国民経済計算体系	106
企業経営	106
経営組織	106
経営理念と経営計画	108
M&A	109
会社法（平成18年5月1日施行）	110
経営情報の開示	110
財務諸表の読み方	111
経営分析	112
新会計基準	113
消費者行動	114

消費者心理	114
マーケティングの概要	116
製品戦略	116
価格戦略	117
販売促進	118
マーケティング用語	118
生活経済	119
家族形態	119
家計の構造	120
税金	121
貯蓄と負債	123
環境	124
エネルギー需給の現状	124
エネルギーの種類	125
新エネルギー	128
地球環境問題	129
京都議定書	130
廃棄物処理	131
省エネルギー	132
環境に関わる法体系	133
世界のエコラベル	134

衣生活

繊維の生産と廃棄

- ① 生産（日本化学繊維協会・統計資料より）
 - ・ 世界の繊維需要：7166 万トン（2008 年）概ね増加傾向。合成繊維が 4262 万トン、綿花が 2444 万トン
 - ・ 世界の合成繊維生産量：3669 万トン（2008 年）→全世界の生産の 61%を中国が生産。日本（2008 年は 84 万トンで全世界の生産量の 2%）及び欧米の生産量は減少傾向
 - ・ 三大合成繊維の生産量の順位①ポリエステル（全合成繊維生産量の 84%）②ナイロン③アクリル→全合成繊維の生産量中三大合成繊維が 98%を占めている
 - ・ 化学繊維生産における中国の生産シェアが高まり、ポリエステルは 60%、レーヨンが 47%。
 - ・ 日本の繊維品貿易はプラザ合意後の 1986 年以降二次製品を中心に輸入が拡大し、大幅な輸入超過が続いている。最近の全商品輸入に占める繊維製品の比率は 5～6%
- ② 消費と廃棄
 - ・ 一人当たり年間繊維消費量：日本 22kg、米国 33kg、中国 6kg（2000 年）
※2008 年の世界の 1 人あたり繊維消費は 10.4kg で増加傾向だが、全体の傾向としては途上国で消費が増加する一方、先進国は微増にとどまり、綿のシェア縮小は続行
 - ・ 消費支出における被服費（履物含む）の割合・・・約 4.5% 年間約 16 万円（2008 年）
 - ・ 家庭から排出されるゴミの約 5%が繊維製品（使い捨ておむつや衛生製品含む）
 - ・ 経済産業省「繊維製品 3R システム検討会報告書（2011 年）」によると繊維製品全体のリサイクル率は 9.5%、リユース率 10%、リペア率 2.6%、3R 率 26.3%

衣服の消費性能

- ① 強さ
 - ・ 一般に繊維は吸湿すると強度が低下するが、綿と麻は逆に強度が増す
 - ・ 着用時の摩擦により毛羽立ち、パイルの脱落、ピリング、てかりなどが生じる
- ② 外観・形態安定
 - ・ 表地と裏地、布と糸の収縮差でシームパッカリングが生じる
 - ・ 織物に比べて編み物は伸び・縮みが生じやすい
- ③ 安全（燃焼・帯電）
 - ・ 起毛製品に火を近づけると表面フラッシュ現象が起こりやすい
 - ・ 吸湿性のある繊維ほど静電気が起きにくい
- ④ 運動
 - ・ 動作によって皮膚が伸びる時、衣服との間には〈皮膚伸び〉＝〈ゆとり〉＋〈ずれ〉＋〈服地の伸び〉という関係がある。つまり衣服の伸びは皮膚の伸びほど必要とはされない。
 - ・ 水着など、ゆとり量のとれない衣服には伸縮性のある素材を用い服地の伸びを大きくする必要がある（衣服圧）
- ⑤ 保温
 - ・ 保温性は熱伝導率の小さい空気の保持量により決まる（空気を多く含むワタ・羽毛は保温性が高い）
 - ・ 一般的な布地の含気率は 60～80%とされ、かさ高い構造の布ほど含気率は高くなる。含気率の高いものほど保温性や通気性に優れる
 - ・ 水の熱伝導率は空気の 23 倍
 - ・ 熱伝導率の高い素材は体熱を外部に伝える力が大きく接触冷感に優れる。
 - ・ 主な繊維の熱伝導率は、高い順に麻、レーヨン、綿、絹、ナイロン、羊毛

- ・衣服の保温力を表す単位（クロー）：1クローとは気温21℃、湿度50%以下、気流10cm/secの室内で安静にしているときに快適と感じる衣服の保温力を言う。気温が低ければクロー値の大きい衣服が必要となる
- ・快適とされる衣服気候は、32±1℃、湿度50±10%、気流25±15cm/sec
- ・同じ繊維なら強撚糸より弱撚糸、織り組織なら平織より斜文織、朱子織が保温力が高い
- ・衣服の保温効果、冷暖房の影響、耐火性などの分析にはサーマルマネキンを用いる
- ・体熱放散には輻射、伝導、対流、蒸発があり、外気温が15～20℃の状態では全放熱量の約60%が輻射による。

⑥ 水分

- ・公定水分率：平均的な気温・湿度の際の繊維に含まれる水分を定めたもの。毛（15%）、絹及び麻（12%）、ビスコース繊維（11%）、綿（8.5%）、ナイロン（4.5%）、ポリエステル系合成繊維（0.4%）。
- ・吸湿性：不感蒸泄（皮膚面から絶えず水分が蒸発すること）などを吸収する性能。一般に合成繊維や半合成繊維は低く、天然繊維や再生繊維は高い
- ・透湿性・放湿性：水蒸気を布の一方から他方に通過させる性能
- ・吸水性：汗などの水分を吸収する性能
- ・撥水性・防水性：雨など外部からの水分の侵入を防ぐ性能
- ・疎水性・親水性：水になじみにくい（なじみやすい）性質。親水性の高い繊維（綿、麻、毛、絹など）は吸湿性に優れる。合成繊維は吸湿性に乏しく疎水性繊維と呼ばれる。

繊維の種類

天然 繊維	植物繊維	綿	繊維が長いほど良質。吸湿性・吸水性に富み、熱に強く丈夫。染色性、発色性に優れる。表面層に不純物を含み撥水性がある。精練・漂白処理すると吸水性が良くなる/縮みやすくシワになりやすい。日光により黄変。
		麻	マカロニのように中央に大きな穴が開いており、繊維が吸ったり吐いたりする力を持つ。通気性が良く、水分の吸湿や発散性に優れ清涼感がある。シャリ感がある。水に濡れると強くなる。/シワになりやすく、摩擦で毛羽立ちやすい。保湿に乏しい。濃い色は白けやすい。
	動物繊維	毛	羊毛、カシミア、モヘヤ、アルパカ、ラクダなど。クリンプが多いため保温効果が高く伸縮性に優れ、弾力性がある。水をはじきやすく、湿気をよく吸収する。シワになりにくく、型崩れしにくい。/虫がつきやすく毛玉ができてやすい。縮みやすい。フェルト状になる。
		絹	生糸（きいと）は1粒の繭から約1500m程度とれる。生糸の断面は2本のフィブロインやセリシンが覆う形となっている。精練する事でセリシンを除去し、フィブロインを取る。天然繊維唯一の長繊維。美しい光沢がある。ドレープ性が特徴。肌触りが良い。風合が良い。保温性・保湿性・発散性に優れている。/シミになりやすい。酸やアルカリに弱い。水に濡れると縮みやすい。汗・雨に弱く鮮やかな色ほど色落ちしやすい。熱に弱い。害虫を受けやすい。
	羽毛	ダウン（胸毛）とフェザー（羽根）があり、保温性に富む。	
鉱物繊維	アスベスト	天然の鉱物が繊維状に変形したもので、耐久性、耐熱性に優れるが、肺疾患などの原因になり、近年社会問題にもなっている。	
化学 繊維	再生繊維	レーヨン・ポリノジック	セルロース系。ビスコース法。吸湿性・吸水性が良い。光沢があり着心地が優れている。ドレープ性がある。染色性が良い。/水に濡れると強度が半分ぐらいに低下する。洗濯で縮みやすい。シワになりやすい。摩擦に弱い。水ジミができてやすい。